



## ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認  
HSK通巻番号620号

発行 令和5年11月10日  
毎月10日発行 定価100円  
(維持会費に含む)

編集 〒060-0006  
札幌市中央区北6条西12丁目8番3  
公益財団法人ふきのとう文庫  
電話(011)222-4839  
FAX(011)222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会  
細川久美子

### 「子どもの権利条約」と果たす役割

公益財団法人ふきのとう文庫 業務執行理事 横澤秀明

二〇二二年二月に勃発したロシアによるウクライナ侵攻は世界中に衝撃を与えました。穏やかなひまわりの国は一変し、ウクライナから国外へ逃れる子ども達も三〇〇万人ともいわれています(二〇二三・九月現)。五〇〇人以上の子ども達の命が失われ、肉親を失った子ども達は保護の名のもとにロシア各地へ離送され悲しみ苦しんでいるのです。衝撃はさらに十月七日に起きました。パレスチナとイスラエルの紛争が勃発したのです。空爆・銃撃戦において二十日間双方一〇、〇〇〇人ものが亡くなり、三、〇〇〇人以上の人が行方不明となっています。パレスチナ難民はガザ北エリアから南エリアへ悲惨な状況下で逃れています。分断の時代ともいわれ、二十一世紀に入り冷戦から和平の時代への期待は一変しました。二十世紀二度の世界大戦、地政学的紛争は歴史に学ぶこともなく再発しているのです。これら紛争で最も苦しむことになるのは弱者である子ども達に他ありません、何の非もなく生まれ育つ子ども達の命と暮らしと未来のすべてを奪うことになるのです。

紛争や突然の災害などから被害者である子ども達の命と暮らしを守ることは、紛争の当事国のみならず世界中の人々に求められることです。ユニセフは子どもの声を代弁する国連機関として「こどもの権利条約」の草案づくりに参加し、一九八九年に国連で採択しました。主には四つの権利として示されています。

- ① 生きる権利(全ての子ども達の命が守られること)
- ② 育つ権利(医療や教育の生活支援を受けて、遊んだり能力を伸ばすこと)

- ③ 守られる権利(一人では生きられない、暴力や搾取、有害労働から守ること)
  - ④ やりたいことに参加する権利(自由に意見が言えること)
- 詳細には四十条からなり、日本も一九九四年に批准し世界一九六ヶ国で加盟しています。こどもを守る「こども権利条約」を世界中の大人達が知り行動することが大切になります。

北海道で暮らす私たちの廻りでも子ども達の権利が揺らいでいます。子どもの貧困は児童七人に一人とも言われ、空腹の子、外で遊ばない子、進学断念、バイト疲労など隠れた悲劇をもたらしています。子ども達の不登校問題も深刻であり少子化に逆行し、二〇二二年では小学生三、二二一人、中学生七、四四三人で一人を越えました。ふきのとう文庫は地域の子ども図書館として、更に第三の居場所として、て、あらゆる子ども達に本に親しむ機会を与えること、遊びと楽しみの居場所を与え、地域の子どもの成長を見守り応援していくことが私たちの大事な役割だと思っています。



© UNICEF/UNI457931/EI Baba



## 子どもと教育をめぐる衝撃の数字

札幌大谷大学社会学部特任教授 一通 論

子どもと教育をめぐる、衝撃の数字が飛び交っています。二〇二三年十月四日の新聞報道によると、二〇二二年度の小中学校の不登校児童生徒数は二十九万九〇四八人で過去最多を更新しています。小学生は十万五二二二人で全小学生の一・七％、中学生は十九万三九三六人で全中学生六％を占めています。以下、いずれも過去最多です。いじめ認知件数は六十八万一九四八。前年度は六十一万五三五一であり、十・八％の増です。児童相談所での児童虐待相談対応件数は二十一万九一七〇。二〇一八年度より五万八千以上の増となっています。子どもの自殺も五十二（暫定値）二十一年より三十九増）に達しています。

ある教育学者の講演によれば、キューバの若者は、自殺者が一人出ただけで悔しがっていたとのこと。翻って、日本では、子どもを含め、毎年二万人以上が自死の道を選んでいますが、キューバの若者のような反応を示しません。キューバに比して、日本の「異常性」は際立っていますが、日本では、これが「普通」だということでしょうか。

不登校に限っても、過去二年間は毎年五万人増という状況から、先生たちがめいっばい頑張っているにもかかわらず「学校は子どもたちにとって有害なものになっている」という仮説が成り立ちます。理由のわからない不登校も、それ自体がりっぱな理由です。〈学校へ行こうと思ったら身体が動かない、お腹や頭が痛くなる…〉となれば、「心」以前に、「身体」が拒否反応を示しているのです。身体反応に、「私にはいまの学校が有害」という「言語」が隠されているのです。これまでの教育政策や学校の実情を振り返りながら、「楽しい」、「わくわく」がキーワードになる学校をつくっていくことが課題になっています。

ふきのとう文庫は、本年七月、家庭と学校に続く、子ども第三の居場所として『ふきのとう・子どもクラブ』を開設しました。第三の居場所、すなわち「サードプレイス」とは、「とびきり居心地のよい場所」（レイ・オルデンバーク）のことです。みんなで子どもたちの育ちを応援しましょう。

☆イベントのお知らせ☆

**11月からもぐっこタイムは  
週に1回！！**

だんだん恒例になりつつあるもぐっこタイムですが、11月から週に1回を予定しています！

～開催日時～

11月8日(水) 16:00～17:00 / 13日(月) 16:00～17:00  
21日(火) 16:00～17:00 / 27日(月) 16:00～17:00

※各回定員15名です。定員を超えた場合キャンセル待ちになります

料金 無料

軽食と飲み物を提供します。

アレルギーの心配がある場合は、事前にご相談ください。

参加したい人はfukinotoukodomoclub@gmail.comへメールを送るか、スタッフへ声をかけて、早めの事前申し込みをお願いします！

**こどもクラブからのお願い**

・上着はハンガーのあるクロークへ

だんだん寒い季節になってきて、厚手のジャンパーやコートを着てくる機会が増えてきました。多目的室の床に上着が置いてあると、うっかり踏んで転んでしまう危険性があります。そうならないために、上着はクロークのハンガーにかけると自分のバッグにしましましょう。

・帰る時間にご注意

こどもクラブでは新しい友達ができる機会が多くなります。そうなるにつれ楽しくなって帰る時間を忘れてしまったり、まだ遊びたい！となることも…。もっといなくなる気持ちはあると思いますが、外が暗くなる時間も早くなってきます。お家の人が心配してしまつので、前もって決めていた時間には必ず帰るようにしましょう。懐中電灯を持ってくるなど、安全対策もおすすです。

ふきのとう・こどもクラブ  
HP: <https://fukinotou-bunko.com/>  
〒060-0006 札幌市中央区北6条西12丁目8-3  
開所日時 月・火・水・日  
(平日14:00～18:00、日曜13:00～16:00)  
MAIL: [fukinotoukodomoclub@gmail.com](mailto:fukinotoukodomoclub@gmail.com)

Instagram: [https://www.instagram.com/fukinotou\\_bunko](https://www.instagram.com/fukinotou_bunko)  
Twitter: <https://twitter.com/fukinotou2102>  
Facebook: <https://www.facebook.com/fukinotou2102>

**ふきのとう・こどもクラブニュース！**

10/31 ハロウィンパーティで大騒ぎ！ 11月号

10月中は31日に向けて子供たちと共に様々な活動をしてきました。

お面作り  
かぼちゃの形を基にそれぞれ個性豊かなお面が並びました。

「ピニャータ」作り  
見慣れぬピニャータに子供たちは興味津々。外枠作りからイラストの書き入れまで、たくさんの子供たちに手伝ってもらいながら完成しました。

当日はまず「ゴーストハント」と題して子供たちにお化けのカード探しゲームに挑戦してもらいました。果たしてお化けたちの正体は…？

次はいよいよ「ピニャータ」割り！順番に子供たちに棒で叩いてもらうと…中からお菓子がたくさん！！夢中で拾い集めてもらった後は、みんなで山分け。蛙のおにぎりと飲み物も味わいつつ、楽しいハロウィンになりました。

11/6 マインクラフトワークショップ

講師の方の説明を聞きながら、iPadを使って、いざマインクラフトの世界へ！  
遊んだことがある子どもも初めての子も一生懸命操作していました。

後半は子供たちが同じバーチャル空間に集合！講師の方が手持ち花火の作り方を教えると、「赤色は？青色は？どうやって作るの？」「大きな家を建てたいから教えて！」と次々に質問する積極的な場面も。あっという間の2時間でした。



## ふきのとう・こどもクラブが 動き出しました

運営リーダー 星野 康

### 一、みんなで割ったピニャータ

十月三十一日はハロウィン。こどもクラブではこの日に向けてかぼちゃのお面づくり、そして、ピニャータの準備を進めてきました。

ピニャータとはメキシコや南米のお祝い事によく使われる日本のくす玉のようなものです。最近ではハロウィンやクリスマス、誕生パーティーなどのイベントで使われることが増えてきました。大きく膨らませた風船に紙を貼り本体を作ります。その中にお菓子などを入れ、それを上からつるして棒でたたいて割ります。

ハロウィン当日は十七人のクラブ員がかぼちゃのお面をつけ、くじを引いて順番を決め、ピニャータ割りに挑戦。割れた瞬間には歓声上がり、落ちてきたお菓子をみんなで受け止めました。差し入れもいただいたパーティーでは、どの子の顔にも笑顔があふれていました。

### 二、ふきのとう文庫、そして、こどもクラブで育つ子どもたち

七月二日に開所したふきのとう・こどもクラブはまだ歩みだしたばかりです。初めのころは来る子も少なく、「このまま来る子が増えなければどうしよう」とスタッフ一同心配していましたが、徐々に登録者も増えて多い日には十人近くが来



した。「小さいころからふきのとう文庫に来ていたよ」「本を読むのが大好きです」の声に聞かれるように、ふきのとう文庫で育った子がきているのも特徴です。ゲームからそっと離れ図書館で読書する子や友達を誘ってお互いに読み聞かせをする姿も見られます。ふきのとう文庫で本に触れ、こどもクラブで学び、遊び仲間を作っていく子どもたちの成長を見守りたいものです。

### 三、これからのふきのとう・こどもクラブ

九月からは軽食・おやつ提供の「もぐっこタイム」を始めました。また、ハロウィンイベントに続き、iPadを使った「マインクラフトワークショップ」も行いました。季節に合わせた様々なイベント活動も計画していく予定です。また、要望の多い異文化交流も計画していきます。今は、英語活動のプログラムを行っています。韓国の方との交流なども計画しふきのとう・こどもクラブの特色にしていきたいと考えています。

まだ、動き出したばかりのふきのとう・こどもクラブですが、地域の方の協力も得ながら地に足を付けた活動を目指していきたいと思っています。今後とも皆様の応援をお願いします。



## ◆ふきのとう文庫への思い

コープさっぽろ組合員活動委員会

吉田 千恵

コープさっぽろとの連携協定をきっかけに初めて「ふきのとう文庫」を訪れたのは今年の初夏でした。木のぬくもりに囲まれ、心がほっとする館内には、沢山の子ども向けの図書と五感を使って楽しめる手づくり布絵本や拡大写本がありました。「すべての子どもに本の喜びを！」をモットーに、ボランティアの皆さんが子どもたちのニーズに合わせて、布の本や拡大写本を丁寧に製作・提供するなど、絵本の楽しさを知ってもらうための活動をされていることに大変感銘を受けました。

七月開所した「第三の居場所 ふきのとうこどもくらぶ」。地域の子どもたちが気軽に立ち寄れる家庭・学校以外の居場所となるふきのとう文庫は、子ども達が安心して過ごせ、地域の人々との交流やさまざまな体験を通して、健やかに成長して行ける場となっていくことと思います。

ふきのとう文庫の活動が、これからも多くの子どもたちに喜びと感動そして優しさを与えてくれることを願っています。

そして私は、私に出来る応援をしていきます。



## 出村さんへの哀悼と御礼

公益財団法人ふきのとう文庫

代表理事 高倉 嗣昌

当文庫の看板である「布の本」部門を十六年間担当理事として、六つある布の本製作グループ中最大の「さくらグループ」のリーダーも兼ね、布の本製作と普及に情熱を傾けて下さって来た出村厚子さんの訃報に接し、驚愕致しました。

二〇〇四年、二代目の理事長として私が新運営体制をつくるべく、これまで布の本づくりの第一線で製作活動をなさっていた出村さんに理事をお願いしたところ、お引き受けをたまわり、布の本部門に限らず全体的な運営に大きくご貢献下さいました。

単に既存物の製作継承に留まらず新作づくりにも取り組んでいただきました。特に布の本を「ブックスタート」的存在として位置づけ、乳幼児でも扱いやすい小型化、小頁化を企画して下さいったのが印象的です。

そうした企画、製作活動を越えて、当文庫の布の本が関わる対外的な諸事項への緻密な対応、直接当文庫に限らず腕のいい布の本の縫い手の養成、更に広く布の本づくりに関心を持つ人々との交流にも力を注いでいただいたのです。

当図書館の札幌市中央区移転に際しては、布の本の展示や利用空間の縮小で活動面での制約が増えてしまったり、縫い手の高齢化で製作が頭打ち気味になるなどで、不満や悩みを持っておいで

だったのではないのでしょうか。

几帳面で責任感の強かった出村さんが、前々回の役員改選時に担当理事や「さくらグループ」の後継リーダーも決められない状態で強引に退かれてしまわれました（担当理事の後任は柳原裕子さん）。

出村さんらしからぬ行動で意外でしたが、実は病魔に襲われており、それを誰にも告げずに去られていたことが御訃報に接してからわかりました。私自身もその過程で察し、何か為すべきことがあったのではないかと悔やんでいます。

現在でいえばまだまだお若く、これからの復帰も期待しておりましたが大変残念です。

出村さんの「布の本」への思いを継承しより発展させていくことが何よりの供養と思っております。ご冥福をお祈り致します。

### 出村さんを偲んで

布の本担当理事 柳原 裕子

出村さんと私は平成五年頃に布の本製作ボランティア活動を始めています。グループは違うので直接話すようになったのは私がリーダー会に参加する平成二十二年から。

出村さんは早くからさくらグループのリーダーを笹井さんから引継ぎ、理事になられ意欲的に活動されていました。

平和の滝から桑園に移転の大きな節目の際、二人で「布の本」の資料整理したの思い出です。約三十年ボランティアで新作本の試作・展示会

の進行、講習会では学生さんから布の本の知識・認識が広まったとの声が喜しいと。森と緑の会主催「木育ひろば」では文庫図書館では普段遊べない遊具等にふれてもらえる事を大事にされていました。

昨年、布の本四十周年展示会準備時も楽しそうにそしてお元気そうでした。

「まだやりたい事が沢山ある」とよく話していましたネ。

あちらの世界で忙しく動きまわっている事と思います。

御冥福をお祈りいたします。



さくらグループメンバー（2014年当時）  
出村さんは後列右から2人目

## 事務 岡田ひろみ

月日の流れは早いと申しますが、布グループリーダー出村厚子さんの訃報を受け早や四ヶ月が立ちました。あまりの突然のことだったので今だに信じる事ができません。二階で作業しているのではないのかと思ってしまう。

私がふきのとう文庫で働くことになった二十年前に、布の本のことやふきのとう文庫のことなど、細かく一から教えてくれた方です。どんな思いで布の本が出来たのか、子どもにとっての本の大切さ、ボランティアとして活動に参加する意味や思いなど、色々なことを教えてくれました。布の本の事を語る出村さんはいつも真剣な顔で熱心でした。子どもが楽しく遊べる布の本はどんなのがいいのかいつも考えている方でした。

どんな時でも気さくに接してくれて本当に頼りにしていました。三年前には「岡田さん安心して。こんなに新作の布の本を考えていて、デザインも決まってきたから」と目をキラキラさせて語っていた出村さんが思い出されます。

布の本を心から愛し、ふきのとう文庫のことを思い最後までボランティアとして一生懸命に尽くしていた方です。出村さんの育てた布グループが遺志を継いで活動していくことを応援します。これからも出村さんから学んだことを忘れずに布の本の素晴らしさを多くの子ども達に伝えていきたいと思っています。

出村さん、ありがとうございます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 出村厚子さんを偲んで

### さくらグループ

出村さんが子供たちの喜ぶことと、布の本の普及に一生懸命だった姿を尊敬していました。

すべて頼り切ってお任せだったので、突然のことに呆然としました。

ボランティアという立場で永年続けてこられた彼女の情熱と、私たちを優しく支えてくださったことに

感謝でいっぱいです。

彼女の頭の中には、やろうとしたことがまだまだあったのだろうと、とても残念です。

最後まで元気な声で話していた、そのままでお別れになってしまったのが、とても哀しいのです

が、今でも「来週はまた会えるような」そんな気持ちがあります。それが彼女の考え抜いて決めたこと(彼女の美学)なのかもしれないという気がします。

(井上せつ子)



出村さん最後の作品  
「なにながすき」

新聞の「ふきのとう文庫」の紹介記事を読んで面白そう・・・と何も考えずに見学に行きました。見本の布の本を見せられて思わず私なんか手が出す世界ではない、と一瞬後悔！縫い物は嫌いではないというだけで雑巾縫いのレベル。出村さんは不安気な私に「人と比べない！」と。以来、何事につけても私を支える大きな一言です。

(高杉能婦子)

出村さん長い間お世話になりました。

縫い方など全く知識のない私に丁寧にご指導をいただきありがとうございます。

布の本の製作や普及のために道内各地へ出張されたり講習会に精力的にかかわっていた姿は今も忘れることができます。

出村さんが取り組み育まれた布の本が今後も継続されていけるよう私たちボランティアも微力ながらお手伝いできたらと考えています。

最後に出村さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(斉藤 容子)

今も文庫に行くと、出村さんがトントントンと元気に階段を駆け上がつて来るような気がして「出村さんがいない」という現実を忘れそうになります。

突然大きな柱を失ってしまいましたでしたが哀しい気持ちを心に秘め皆で作業に没頭し何とか活動を続けています。

まだまだ一緒に活動できると思っていたのに本当に残念です。在りし日の姿を偲びつつご冥福をお祈りいたします。

(神山 晶子)

あまりに早い旅立ち、悔しいです。短いおつきあいでしたがお世話になりました。ありがとうございます。

(坂井まゆみ)

布の本のさくらグループに快く入れてくださり真摯に指導して頂き、出村さんと出会えた事は忘れられない大切な事です。ありがとうございます。

(竹田 紀子)

## 出村さんの手記

### 布の本の製作講習会に参加して

出村 厚子

七月二十五日、北海道函館盲学校の依頼で「障害のある子どもに対応した読書活動推進モデル事業」の一環として、布の本の製作講習会に協力するため、三名で函館に行つて来ました。教職員と地域のボランティアサークルの方々、合わせて四十三名の参加で、四冊の布の本の製作講習をしました。布の本の存在と布の本の持つすばらしさを知ってもらい、製作過程における楽しさを実感し、完成時の満足感を味わい、さらに、心込めて製作した布の本で子ども達が遊んでくれる喜びを感じて頂きたい。ぜひたくな望みを胸に出かけました。大変暑い日でしたが、それに負けない参加者の熱意の中、十分に思いが達成されました。私達にとっても実り多い貴重な時間を過ごすことができました。多様化するニーズに対応した布の本の製作の必要性を改めて痛感しました。(数ある中で平成十四年九月十日、文庫だより第六八号より)

賛助費、寄附、寄贈ご芳名 にご支援ありがとうございました。

2023年7月以降賛助会費納入一覧

個人(40名)

相原 靖 相原 則子 飯尾 良英  
伊藤 雅子 庵原 律子 岩本 康治  
上村 由美 牛久保真澄 大倉 聡子  
川端 満 久保由美子 久保田 亨  
熊谷 勝宏 黒木 克己 佐々木順子  
塩田ひろみ 島田小夜子 島田 紘  
諏訪部千秋 高倉 聖哉 竹田 義秋  
田辺 敏子 中田こずえ 中山 芳子  
野口 光世 林 規子 藤田 宮子  
星野 康 本吉 春子 前田 妙子  
増田 正 松井 紀子 村田 真理  
村松 晶子 森 祥子 山崎 伊代  
矢野 直美 吉川 朗子 吉田 千恵  
原田 宏子  
一三〇号のご芳名覧におきまして、ご芳名に記載モレがありました。失礼をお詫び申し上げます。  
四月二十四日納入・堺 隆

団体(三団体)

リコージャパン(株)  
士別図書館・わらべ  
コープさっぽろ 函館地区委員会

2023年7月以降寄附金納入一覧

個人(12名)

飯村 俊幸 庵原 律子 斎藤美年子  
杉下 清次 諏訪部千秋 宝本 英明

中村 哲清 中村 麻由 門馬 博美  
矢野 直美 山崎 伊代 渡辺 克枝

団体(二団体)

(株) 太田ファーム・太田昌子  
生活クラブ生活協同組合

2023年7月以降寄贈一覧

7月4日 石川 悦子 ギフトカード  
7月14日 学研 児童書 2冊  
7月18日 図書館ネットワークサービス 児童書 22冊  
7月23日 童心社 児童書 27冊  
9月3日 安藤 敏郎 絵本 1冊  
児童書 35冊  
10月1日 童心社 絵本 2冊  
10月8日 福田 都代 絵本 1冊  
10月18日 斉藤 節子 書籍他 17冊  
10月20日 童心社 絵本 43冊  
10月22日 偕成社 児童書 2冊  
10月29日 福田 都代 絵本 1冊  
10月30日 文藝春秋 児童書 15冊  
児童書 1冊

行事一覧

7月2日 第三の居場所 開所式  
7月3日 第三の居場所「こどもクラブ」開始  
7月9日 手作り遊び  
7月16日 おはなし会

7月18日 運営会議  
7月23日 井上美豊子と楽しもう  
7月30日 腹話術  
8月20日 おはなし会  
8月27日 仁木彩子ピアノ演奏会  
9月8日 運営会議  
9月10日 うたう会  
9月17日 おはなし会  
9月24日 人形劇団「ひよっこ」  
9月26日 理事会  
10月8日 井上美豊子と楽しもう  
10月15日 おはなし会  
10月22日 手作り遊び  
10月24日 運営会議  
10月29日 評議員会  
10月31日 桑園小学校開放図書館「くわのみ」 20名視察  
11月12日 中央幼稚園 26名見学  
11月19日 アンサンブル・フラテ演奏会  
12月10日 おはなし会  
12月17日 うたう会  
12月17日 おはなし会  
1月21日 おはなし会  
1月28日 井上美豊子と楽しもう  
2月18日 おはなし会  
2月25日 白毛満と楽しもう「腹話術」  
3月17日 おはなし会  
3月24日 手作り遊び

# 決算報告

九月期までの進行は、ふきのとう文庫支援者である「賛助会員」さんの減少が続いています。活動を支えていただいた会員さんの高齢化が進み、代わる後継ができていないことが問題になります。これからの世代へ活動を知っていただき、応援していただく働きかけを行うことが重要になっています。寄付金および助成金は昨年度並となり、支出の部では大きな超過はなく予算範囲の進行となっております。

今年は第三の居場所（こどもクラブ）活動が始まりました。進行として参加児童数はスタート時三〇五名でしたが、最近では十名ほどとなり多い

## 上半期 収支実績

令和5年度9月末		単位千円		
	予 算	5年9月末	前年同月	前前年同月
収入の部				
賛助会費	3,000	1,582	2,091	2,193
寄付金等	2,200	2,656	1,935	2,801
助成金	8,670	8,365	2,496	2,050
事業収入	1,600	557	2,030	1,818
雑収入				
合 計	15,470	13,161	8,553	8,863
支出の部				
管理費	12,850	5,802	6,251	5,485
事業費	2,620	874	2,173	2,728
合 計	15,470	6,676	8,425	8,214
収支差益	0	6,485	127	649

日は十五名以上になってきました。かかる費用は予算内収支で運営しております。

## ふきのとう文庫の最新ニュース

### アンサンブル・フラテ

#### 医学生によるクラシック演奏会

二〇二三年十一月十二日

毎年恒例の医学生による演奏会が十一月十二日に行われました。今年で七回目になります。北海道大学医学部学生を中心とする室内楽アンサンブルです。主に北海道大学病院などで入院患者さん



## 新しい拡大写本できました。

ぼくは うちゅうじん

中川 ひろたか 作

誰かが足りない (全3冊)

宮下 奈都 作

わたしの母さん (全2冊)

菊地 澄子 作

向けのボランティア演奏を行っている医学科公認の学生団体の皆さんです。今回の演奏会には大人二十六人・子ども十七人の皆さんが集まりました。楽器の紹介から始まり「フルート」と「ピアノ」です。一曲目はみんなが知っている「アンパンマンマーチ」の演奏です。ニコニコ笑顔の子ども達です。次にフルート単独演奏で「星に願いを」心地よい音色に癒されました。三曲目は歌「ゆきやこんこ」みんなで歌いましょう。四曲目はピアノ・フルート・ピアノで「おもちゃのチャチャチャ」、最後の曲は「ドレミの歌」親子で元気に歌いました。終了後は楽器に触って音を出してみたいました。年一回の本物の楽器演奏に触れるイベントです。来年もお楽しみに！



—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキスト No	布の本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の本	テキスト	材 料 セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	15	おかあさん	200円	3030円		どんぐりころころ	なし	4360円
12	MY BOOK	200円	3320円		どうぶつ		1820円		おむすびころりん	なし	5560円
	このいろなあに		3850円	16	まる	200円	3320円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
13	のりもの	200円	1620円		むし		2230円		やさいセット(8種)	なし	600円
	だれのうち		3320円	17	ちいさいおおきい	200円	3030円	遊具	くだものセット(7種)	なし	500円
14	Greeting	200円	3030円		さかな		1720円				
	おやつ		1720円		わっ!	なし	1720円				



## 二〇二三年度 赤い羽根街頭募金活動

十月一日から八日まで札幌市内中心部で実施されました「赤い羽根街頭募金活動」に、布グループ「やよい」から三名の方と高倉代表理事も参加しました。趣旨は社会福祉の精神を広く市民に理解していただき、寄せられた募金を様々な福祉活動に助成することで、共に支えあうより豊かな「さつぽろ」の街を築いていこうというものです。街頭募金は広く市民の善意を集結し、地域に根ざした福祉発展のために募金をお願いするものです。ふきのとう文庫の活動は皆さまから寄せられた、赤い羽根共同募金により支えられております。善意と助け合いに深く感謝いたします。

## あとがき

一三一号は長くふきのとう文庫布の本製作でご活躍いただき今年五月にお亡くなりになられた故出村厚子様の追討文を関係者の皆様に寄せていただきました。故出村厚子様のご活躍に感謝申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。今号では子どもの権利条約について触れ、ふきのとう・こどもクラブ活動について編集しました。今日の世界各地で起きている悲惨な紛争は子どもたちの命と未来を奪うもの、一刻も早い停戦と支援を臨むものです。(横澤 記)

## 年末年始の休館お知らせ

今年度年末年始の休館は定期的休館日も含めて左のようにさせていただきますので、よろしくお願い致します。

二〇二三年十二月二十八日(木) ~  
二〇二四年一月六日(土)

## 編集 公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北 6 条西12丁目 8  
☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800  
http://www.fukinotou.org  
E-mail: fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp  
令和 5 年11月10日 発行  
毎月10日発行 定価100円(維持会費に含む)

昭和48年 1 月13日 第 3 種郵便物承認  
HSK 通巻620号  
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会  
細 川 久美子

郵便振替 = 02720-3-2300 銀行口座 = 北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、「北海道共同募金会の配分」により刊行しています。  
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。